

EDU-Port ニッポン 令和7年度の取組について（概要）

1. 事業の実施概要

令和7年度は下表日程のとおり事業を実施した。

詳細は、EDU-Port ホームページの報告記事（本文にリンク記載）、及び委託先である株式会社コーエイリサーチ&コンサルティングの報告書（【資料3-詳細】として添付）を参照。

表 1 事業の実施日程

	業務内容	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
(1)「日本型教育の海外展開官民協働プラットフォーム」の運営													
①プラットフォームの基盤的運営													
1-1	日本国内でのEDU-Portの認知度向上	EDIX、NEW EDUCATION EXPOでの広報活動											
1-2	海外でのEDU-Portの認知度向上				TICAD9テーマ別イベントにブース出展				駐日各国大使館の教育・科学技術担当 外交官（アタッシェ）交流会				
2	個別相談への対応・複数セクターのマッチングを通じた海外展開の促進					個別相談への対応・マッチング							
3	ステアリングコミティ・次期EDU-Port事業の在り方に関する検討会の開催支援	第16回ステアリングコミティ			令和7年度第1回幹事会						第17回ステアリングコミティ 令和7年度第2回幹事会		
4	「日本型教育海外展開応援事業（EDU-Portニッポン応援プロジェクト）」及び調査研究の審査・採択		審査・採択										
5	ホームページ・SNSなどを通じた国内・国外に向けた発信						国内・国外に向けた発信						
6	海外の教育関係者への日本の教育の知見共有・相互交流の機会の提供	専門家リストの作成・専門家派遣支援				SEAMEQ-Japan	ESD Award受入れ				OECD教育・スキル局課長の スクールビジョン		
7	成果報告書の作成・セミナーやシンポジウムなどを通じた成果の普及の促進	教育委員会・学校関係者を 対象としたセッションの開催					教育協カワーク2025			成果報告書の作成			
②日本型教育海外展開推進応援事業（EDU-Portニッポン応援プロジェクト）の公募・採択・実施													
	日本型教育の海外展開推進応援事業（EDU-Portニッポン応援プロジェクト）の公募・採択・実施	審査委員会設置 公募内容・選考方法の決定 公募説明会開催・公募 審査・結果公表											成果報告面談
(2)日本型教育の海外展開に関する調査研究の公募・採択・実施													
	グローバルサウス諸国への教育システムの海外展開と国内還元に関する調査研究（継続）の実施												成果報告面談
	アフリカにおける水平的な日本型教育の海外展開に関する調査研究（新規）の公募・採択・実施	審査委員会設置 公募内容・選考方法の決定 公募説明会開催 公募 審査・結果公表・再委託契約											成果報告面談

出所 株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング作成

2. 主な取組概要

①「日本型教育の海外展開官民協働プラットフォーム」の運営

- 1) 本事業の推進方策について検討するステアリングコミッティ及び幹事会の開催
- 2) 国際協力の実施主体及び国内教育委員会や学校現場との連携強化・事業の認知度向上・運営効率化促進
 - 第9回アフリカ開発会議（TICAD9）「TICAD Business Expo & Conference」 Japan Fair（令和7年8月20日～22日／神奈川県 パシフィコ横浜）へのブース出展：
アフリカにおける EDU-Port 事業参加機関の様々な取組や、アフリカで事業を展開中、あるいは進出を目指しているプラットフォームメンバー機関の製品・技術・サービスを、パネル、教材、動画にて紹介。
日本を含め 37 か国から 500 名以上が来訪。アフリカからの来訪者数はナイジェリアが最も多く、次いでケニア、ガーナなど。
あべ文科大臣他、エジプト教育・技術教育大臣、マダガスカル技術・職業訓練大臣など政府高官も来訪し、日本型教育に関心を示した。
※[開催報告リンク](#)
 - 国内外の教育総合展等における広報活動：
EDIX（教育総合展）東京2025（令和7年4月23日～25日／東京ビックサイト）にて、参加機関の出展ブースを訪問しEDU-Portニッポンを紹介
NEW EDUCATION EXPO2025（令和7年6月5日～7日／東京ファッションタウン）入場者にEDU-Portニッポンのチラシ配布
 - 文科省主催 駐日各国大使館教育・科学技術担当アタッシェ交流会における事業紹介（令和8年2月27日）：
EDU-Portニッポンのデスクを設置し、事業を紹介。
- 3) セミナーやシンポジウムなどを通じた成果の普及の促進
 - 「実践研究 福井ラウンドテーブル2025 Summer Sessions」（令和7年7月5日・6日／福井県 福井大学）への参加：
EDU-Portニッポン公募事業実施9機関が参加し、ポスターセッションやラウンドテーブルの報告者を務めたほか、実施機関間の意見交換を実施。
※[開催報告リンク](#)
 - 「教育協力ウィーク 2025（学ぼう！つながろう！未来のためにできること）」にて、文部科学省セッション「日本型教育の海外展開（EDU-Port ニッポン）×アフリカの教育課題の今とこれから」を開催（令和7年9月10

日／オンライン）：

TICAD9を受け、JICA、民間企業、NP0からの登壇者が、アフリカにおける教育課題やニーズ、事業展開や今後の展望について紹介した後、事業をアフリカで展開することの難しさや機関間の連携及び協働の在り方などについて意見交換。

※[開催報告リンク](#)

- EDU-Portシンポジウム「EDU-Portの成果と新たな取組の始動」（令和8年2月27日／文科省講堂）開催：

EDU-Port事業の過去10年間の歩みを振り返るとともに、日本の教育の国際化・質的向上への効果や、アフリカにおける日本型教育の展開に関する調査研究成果を報告。

また、次期EDU-Port事業として目指す「日本発国際教育プログラムの構築」の方向性について共有し、近年国際的に重要性が指摘されている非認知能力や、「知・徳・体」のバランスを育む全人教育を特徴とする日本型教育について、国際的な教育議論との接続や各国の教育政策における位置付けなどの観点から意見交換を実施。会場及びオンラインの参加者からは、大学入試制度の影響、保護者や社会の意識など、日本の教育の現状についても、様々な観点から意見や質問が出され、関心の高さがうかがえた。

対面とオンラインで、国内外から約300名が参加。駐日各国大使館の教育・科学技術担当アタッシェも約40名が参加。

全体セッション終了後には、今年度事業実施機関が各国での具体的な取組や成果を紹介するポスター発表を実施し、各国アタッシェから個別の取組について高い関心が示された。中でもウズベキスタンやベトナム、グアテマラのアタッシェと活発な交流が進み、具体的な話し合いへと進んだ事例も報告された。

※[開催報告リンク](#)

4) 個別相談への対応・複数セクターのマッチングを通じた海外展開の促進

- EDU-Portニッポンホームページ機能を活用した、個別相談への対応と複数セクターのマッチング支援：

EDU-Port ニッポン公募事業実施機関のほか、国内外の43機関からの個別相談に対し、情報提供とマッチングを行った。

5) ホームページ・SNSなどを通じた事業成果の国内外への発信と共有

- EDU-Portホームページをプラットフォームの情報発信の中核とし、公募事業実施機関による活動報告である「[プロジェクトニュース](#)」10件、有識者による海外の教育ニーズや、シーズとなる日本の教育に関するコラ

ム記事「[ニーズ・シーズ集](#)」5件、公募実施機関の成果品公開を8件掲載した。メールマガジンは定期配信12回、特別号を6回配信。
ホームページへのアクセス数は204,470（対前年比167％）。

6) 海外の教育関係者への日本の教育の知見共有・日本国内の学校視察等の実施を通じた相互交流の機会の提供

➤ スクールビジット

・ SEAMEO-Japan ESD Award 優勝校（フィリピンの高校）の生徒・教員、アジア教育大臣機構（SEAMEO）による在日フィリピン大使館、さいたま市立大宮北高校への訪問支援。（令和 7 年 9 月）

[※開催報告リンク](#)

・ 経済協力機構（OECD）教育・スキル局課長による東京学芸大学附属大泉小学校訪問を調整。（令和 8 年 3 月）

[※開催報告リンク](#)

➤ 【SEAMEO が設置する地域センターへの専門家派遣】

・ これまでの EDU-Port ニッポン公募事業参加機関に希望者を募集。SEAMEO地域センターとのマッチングが成立した 5 名につき派遣を支援。

② 「日本型教育海外展開応援事業（EDU-Portニッポン応援プロジェクト）」及び調査研究の公募・審査・採択

1) EDU-Port ニッポン応援プロジェクト

日本の特色ある教育をもとに培われた教育コンテンツ・手法・ノウハウなどを海外展開する取組を広く募り、その活動を認定し、後押しする事業として公募・採択・実施を行った。24件の申請があり、審査の結果21件を採択。

2) 「日本型教育の海外展開に関する調査研究の公募・採択・実施

➤ 令和 6 年度採択「グローバルサウス諸国への教育システムの海外展開と国内還元に関する調査研究」の継続実施

（経費支援額：約 800 万円、国立大学法人福井大学）

➤ 令和 7 年度「アフリカにおける水平的な日本型教育の海外展開に関する調査研究」の公募・採択・実施

2025 年が TICAD9 の開催年であることに鑑み、対象地域をアフリカとする。日本の特色ある取組への関心やニーズが高いと思われる国・地域、ニーズの具体的内容を特定し、生涯にわたる学びに役立つ知識と技術の向上に資する学習手法に焦点を当て、当該手法の展開を図る方策を調査・分

析する調査研究事業。

15件の申請があり、公文教育研究会を採択。（経費支援額：約 800 万円、対象国：ガーナ）

両調査研究事業ともに、2月27日に開催したEDU-Portシンポジウムにて成果を発表。

※[資料と動画リンク](#)

令和7年度は、前年度の採択機関と併せ32件の事業を支援した。採択機関から報告があった成果例として、文科省の支援事業であることにより、相手国政府機関・教育機関との関係構築が円滑に進み、政府機関との間で覚書を締結したことや、政府要職者との面談を実現できたこと、メディアに取り上げてもらうなど効果的に情報発信ができたこと、また、①-3)に記載のセミナー・シンポジウムの実施により、採択機関同士の交流・情報交換が促進され、具体的な協働に発展した事例が明らかとなった。次年度以降についても、そうした交流の場の提供に期待が寄せられた。

これまでEDU-Portが「応援プロジェクト」「調査研究事業」によって支援した事業10件につき、ホームページ上で「プロジェクトニュース」として具体的な活動成果報告を発信している。

※[プロジェクトニュース](#)

以上